

**製品名: CD57 ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab08420**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	IHC, ICC/IF, ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率 IHC 1:100-1:300, ICC/IF 1:50-1:200, ELISA 1:5000-1:10000

分子量

**抗原情報**

遺伝子名	B3GAT1
別名	B3GAT1; GLCATP; Galactosylgalactosylxylosylprotein 3-beta-glucuronosyltransferase 1; Beta-1; 3-glucuronyltransferase 1; Glucuronosyltransferase P; GlcAT-P; UDP-GlcUA:glycoprotein beta-1,3-glucuronyltransferase; GlcUAT-P
遺伝子 ID	27087.0
SwissProt ID	Q9P2W7
免疫原	抗血清はヒト CD57 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 35-84

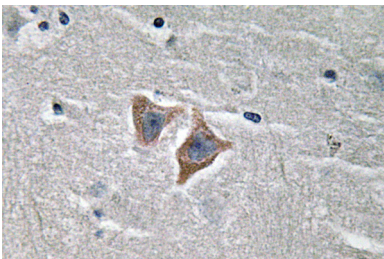
**背景**

この遺伝子によってコードされるタンパク質は、グルクロン酸転移酵素遺伝子ファミリーのメンバーです。これらの酵素は厳密な受容体特異性を示し、非還元末端糖とそのアノマー結合を認識します。この遺伝子産物は、糖エピトープ HNK-1 (ヒトナチュラルキラー-1、CD57 および LEU7 としても知られる) の生合成におけるグルクロン酸転移反応の鍵酵素として機能します。選択的転写スプライズバリエーションが特徴付けられています。[RefSeq 提供、2008年7月],触媒活性: UDP-グルクロン酸 + 3-β-D-ガラクトシル-4-β-D-ガラクトシル-O-β-D-キシロシルタンパク質 = UDP + 3-β-D-グルクロン酸-3-β-D-ガラクトシル-4-β-D-ガラクトシル-O-β-D-キシロシルタンパク質。補因子: マンガン。機能: 糖タンパク質上の L2/HNK-1 糖鎖エピトープの生合成に関与する。グリコサミノグリカンの生合成にも関与する。基質には、アシアロオロソムコイド (ASOR)、アシアロフェツイン、アシアロ神経細胞接着分子などがある。活性にはスフィンゴミエリンが必要: ステアロイルスフィンゴミエリンが最も効果的で、次いでパルミトイルスフィンゴミエリン、リグノセロイルスフィンゴミエリンであった。アシル基の長さに関わらず、飽和脂肪酸を含むスフィンゴミエリンのみ活性が示され、不飽和脂肪酸を含むスフィンゴミエリンでは活性が示されなかった。オンライン情報: GlycoGene データベース,経路: タンパク質修飾; タンパク質グリコシル化,類似性: グリコシルトランスフェラーゼ 43 ファミリーに属する。サブユニット: ホモ二量体,組織特異性: 主に脳で発現する。,

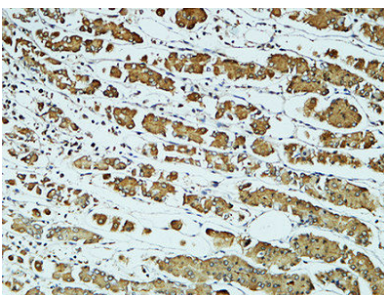
## 研究分野

コンドロイチン硫酸生合成;ヘパラン硫酸生合成;

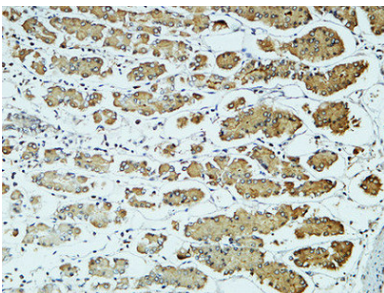
## 画像データ



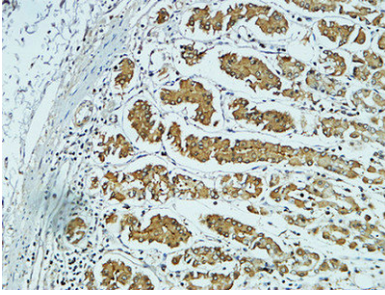
パラフィン包埋ヒト脳組織における CD57 抗体の免疫組織化学分析。



パラフィン包埋ヒト胃の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:400 (4°、一晚) に希釈した。2、抗原賦活化には高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用した。3、二次抗体を 1:200 (室温、30分) に希釈した。



パラフィン包埋ヒト胃の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:400 (4°、一晚) に希釈した。2、抗原賦活化には高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用した。3、二次抗体を 1:200 (室温、30分) に希釈した。



パラフィン包埋ヒト胃の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:400 (4°、一晚) に希釈した。2、抗原賦活化には高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用した。3、二次抗体を 1:200 (室温、30分) に希釈した。